

鹿児島県総合教育センター

平成23年度長期研修研究報告書

研究主題

外国語活動の学びを生かした中学校英語第1学年に
おける「話すこと」の指導の充実

— 小学校で取り扱われた題材や語彙・表現の活用を通して —



錦江町立錦江中学校

教諭 河原 ミワ子

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の構想	
1	研究のねらい	1
2	研究の仮説	1
3	研究の計画	2
III	研究の実際	
1	外国語活動を経験した生徒への指導	2
(1)	外国語活動導入後の期待される生徒の姿	2
(2)	外国語活動の学びを取り入れる上での課題	2
(3)	外国語活動の共通教材英語ノートで取り扱われる語彙・表現	3
2	実態調査の分析と考察	6
(1)	調査の視点	6
(2)	外国語活動及び中学校の英語に関する意識調査	6
(3)	校区内小学校の外国語活動の状況	7
3	中学校第1学年での「話すこと」における到達目標と年間指導計画	7
(1)	「話すこと」の到達目標	8
(2)	英語ノート等の語彙・表現を活用する中学校第1学年の「話すこと」	8
(3)	外国語活動を位置付けた「話すこと」の年間指導計画	8
4	英語ノート等の語彙・表現を活用した「話す活動」の工夫と単元の指導計画	9
(1)	「話す活動」の充実を図る単元の指導計画	9
(2)	英語ノート等で触れてきた語彙・表現の把握と想起	10
(3)	言語の使用場面に照らして英語ノート等の語彙・表現を活用させる工夫	10
(4)	英語ノート等の語彙・表現を活用して文法事項を正しく認識させる工夫	11
5	「話す活動」の単元のモデル	12
(1)	自己紹介に英語ノート等の語彙・表現を活用する例	13
(2)	友人を紹介する文構造の導入に英語ノート等の語彙・表現を活用する例	14
(3)	英語ノート等の語彙・表現を文法事項（can）の導入に活用する例	15
6	検証授業の実際と考察	16
(1)	検証授業Ⅰ	16
(2)	検証授業Ⅱ	19
IV	研究の成果と課題	
1	研究の成果と課題	23
(1)	外国語活動を生かした「話す活動」を位置付けた到達目標・年間指導計画	23
(2)	単元の指導計画の工夫による「話す活動」の充実	24
(3)	言語の使用場面に照らした英語ノート等の語彙・表現の活用の工夫	24
(4)	英語ノート等の語彙・表現を活用し文法事項を正しく認識させる工夫	24
2	今後取り組むべき点	24
(1)	小中連携の推進	24
(2)	「話すこと」以外の技能への連結	25

I 研究主題設定の理由

本研究は、小学校の外国語活動で取り扱った外国語や基本的な表現等を中学校第1学年の英語教育に円滑に接続するとともに、「話すこと」の指導の充実についての基本的な考え方を構築し、検証授業を通して、その有用性についてまとめたものである。

新学習指導要領には中学校第1学年における言語活動への配慮事項として、「小学校における外国語活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度などの一定の素地が育成されることを踏まえ、身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動を行わせること。」とある。実際に、外国語活動を経験した生徒にはコミュニケーション活動への積極性や身近な外国語の音声への慣れ親しみなどが従前より感じられ、特に、「話すこと」の言語活動においては、これまで以上に発話の量や質において、その成果が期待できる。本中学校区においても、小・中連携の重要性から外国語活動の授業を参観する機会が与えられ、小学校の外国語活動は、いわゆる英語の授業ではなく、外国語を使って互いのことを伝え合う活動であるという認識が中学校の指導者に広がってきている。また、児童のコミュニケーションを図る様子から、その学びを中学校の授業にも生かしたいという声も聞かれるようになった。

しかしながら、中学校での外国語科の目標が外国語活動の目標と異なっていることもあり、中学校の指導者が外国語活動の実態を捉えにくいという課題がある。これまで中学校においては外国語活動の学びを意識した指導が行われず、話す内容やつながり、使用する語彙・表現について、指導後の成果において従前の生徒と顕著な違いを見出すことはできなかったと思われる。中学校の各学習段階で既習・未習にかかわらず、小学校で慣れ親しんだ語彙・表現を効果的に授業に取り入れられるような指導の工夫が必要であると考え。特に、中学校第1学年においては、教科書で取り扱う言語材料が少ないだけに、小学校の語彙・表現を活用することにより、話す内容の質的・量的な充実を図ることができる考える。

以上の点から、特に中学校第1学年での「話すこと」に着目して、具体的な到達目標を設定した上で、外国語活動で慣れ親しんだ語彙・表現を適切に取り入れ、単元や各単位時間のねらいに沿った活用を図る授業展開を構築することが重要である。このような工夫を通して、小学校での学びを生かした中学校での効果的な指導を探ることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

II 研究の構想

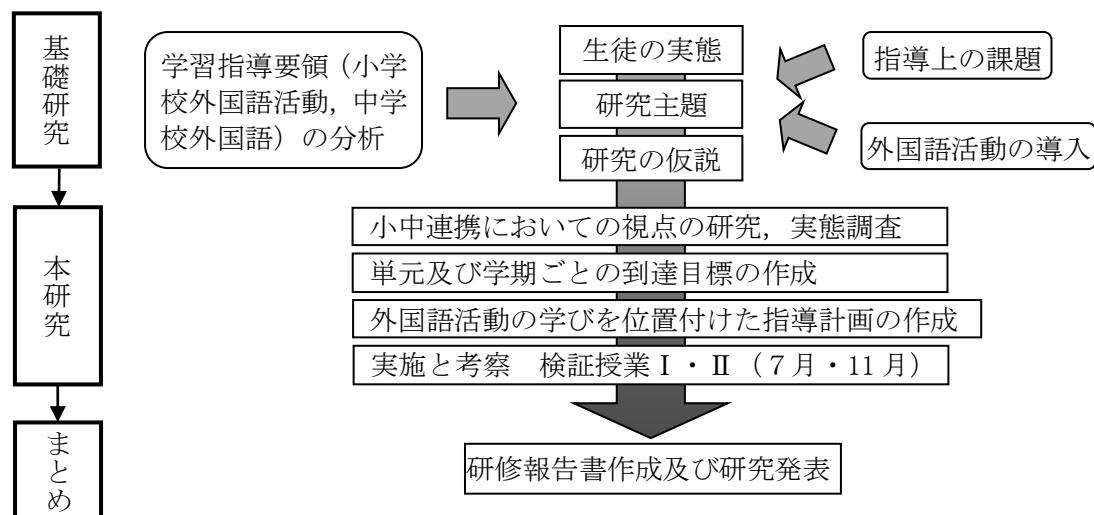
1 研究のねらい

- (1) 校区内の小学校や生徒の実態調査を行い、小学校の指導状況や学習の実態を明らかにする。
- (2) 中学校第1学年段階で目指すべき「話すこと」に関する到達目標、及び外国語活動を生かした指導計画を作成する。
- (3) 単元構想や授業設計に当たり、外国語活動の学びを生かした英語指導を充実させる指導モデルを探る。
- (4) 検証授業を通して、仮説を検証するとともに、研究の成果と課題を明らかにする。

2 研究の仮説

中学校第1学年での「話すこと」における到達目標を明確にし、外国語活動で取り扱われる身近な外国語等を、言語の使用場面に照らして活用させたり、文法事項を正しく認識させたりするなどの工夫を指導計画に位置付けることで、自分の気持ちや身近なことについて表現する「話すこと」の活動の指導の充実が図れるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究の計画



Ⅲ 研究の実際

1 外国語活動を経験した生徒への指導

(1) 外国語活動導入後の期待される生徒の姿

外国語活動を経験してきた本校生徒の英語学習における特徴として、次の4点が挙げられる。

第1に、英語による言語活動に対して抵抗感がほとんど無いことである。英語の活動に親しんでおり、英語を使用してのペア活動等を入学当初から支障なく行うことができる。第2に、身近な英語に慣れ親しんでいることである。挨拶や日付に関する表現をよく知っており、身の回りの品物等について視覚的に提示すると、時間を置かず英語で発音ができる。第3に、基本的な英語の音声を身に付けていることである。外国語活動では、ALTの指導が行き届いており、文字を介さず音声イメージをそのまま習得してきている。第4に、聞く力がある程度身に付いてきていることである。小学校での音声を中心とした授業により、聞いて反応したり、重要な部分を集中して聞き取ろうとしたりするなど、入学当初からこれまで以上に英語を用いた授業が円滑に行える状況である。したがって、中学校の指導者が現状を認識し、中学校での指導を適切に行った場合、次のような生徒の姿が期待できる。

- ・ 基本的な英語の発音に慣れているため、強勢やイントネーションなど正確に英語の発音をしようとする姿
- ・ 英語に慣れ親しみ聞き取りの力があるため、発話者の英語を類推しながら積極的に聞こうとする姿
- ・ 外国語活動において英語を用いた表現活動に慣れており、英語への抵抗感が低いため、入学時から様々な活動に積極的に参加できる姿
- ・ 多くの単語を知っているため、対話などの表現活動においての内容の量や質がこれまでより向上できる姿
- ・ 慣れ親しんだ表現を利用できるため、より円滑に新出文法事項を理解できる姿

一方、少数ではあるが外国語活動に対して否定的な感情をもち、中学校への入学時点で既に「自分は英語が苦手だ」という消極的な生徒もいる。外国語活動を経験してきた生徒の英語学習に対する意識も的確につかむ必要がある。

(2) 外国語活動の学びを取り入れる上での課題

外国語活動を中学校の英語学習に生かしていく上では、中学校の指導者の理解と意欲が極めて大切である。しかし、現実には中学校の指導者には小学校の成果が見えにくい現状がある。これは外国語活動の目標と中学校外国語科の目標の違いに起因すると思われる。表1の下線部にある

ように、外国語活動では体験や慣れ親しみを重要視し、コミュニケーションの素地を養うことを目標としており、知識としてではなく、外国語を使う活動を通して、言葉の豊かさに気付いたり、積極的に自分の思いを伝えたりしようとする態度の育成に重点がある。中学校段階の英語教育の前倒しではなく、スキル向上のみを目指すものでもないこともよく指摘されることである。中学校外国語科では、コミュニケーション能力の基礎を養うことが目標であり、言語や文化の理解や積極性を重視しながらも、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの4技能の向上が目標の中核と位置付けられている。端的には、小学校ではコミュニケーションの成功体験を数多くもたせることに対して、中学校では言語学習という側面が強まり、理解や表現ができるよう指導していくことを目指していると思われる。これらの違いをそれぞれの指導者が理解しなければ、小学校の外国語活動で定着を図る活動が行われたり、中学校の英語の指導者が小学校での学習に定着を求めたりするような誤解が生じる恐れがある。中学校で外国語活動を活用する際には、これらの目標の違いを理解しておくべきであると考えられる。

表1 小学校外国語活動と中学校外国語科の目標

小学校外国語活動の目標	中学校外国語科の目標
外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語活動の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、 <u>コミュニケーション能力の素地を養う。</u>	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの <u>コミュニケーション能力の基礎を養う。</u>

小・中の目標の違いを認識している中学校の指導者においても、指導の実際において次の2点が課題である。

第1に、外国語活動でコミュニケーションを図る活動を経験している生徒に対する指導が、十分でないことである。例えば、指導者が外国語活動で慣れ親しんだ簡単なあいさつや身の回りの英語などを把握していない場合、当然のことながら中学校では活用できない。外国語活動で触れてきた語彙・表現はそれぞれの小学校によって異なり、定着しているとは限らないが、明らかに知っている英単語や表現の数は以前より多い。中学校の英語学習への橋渡しと言える第1学年の導入期の指導において、外国語活動の経験を生かすことで、新しく学ぶ内容への戸惑いや抵抗感を減らし、生徒の学習への興味や意欲をより喚起することができると思われる。

第2に、生徒が音声によって身に付けた語彙・表現を英語指導のどの時点で活用すればよいかが明確でない点である。図1にあるように外国語活動においては児童の興味・関心に基づいた活動を行うことから、その語彙は必ずしも中学校の教科書の言語材料とは一致しない。また、外国語活動で触れた基本的な表現を文法事項として捉えると、中学校第1学年で学習するものの他、一部ではあるが中学校第2学年で学ぶ事項も含まれている。

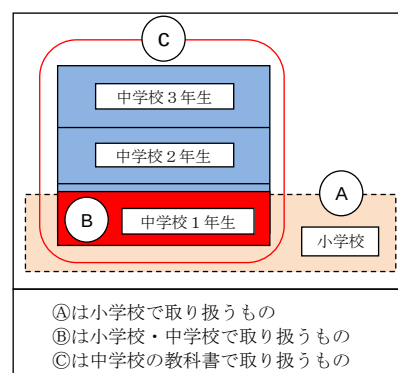


図1 小・中学校で取り扱う語彙・表現

英語ノート等外国語活動で触れてきた語彙・表現を活用するためには、中学校の英語の目標の到達を目指した指導計画の中に、生徒が外国語活動で慣れ親しんだ語彙・表現を生かして行える活動や言語活動の場を設定し、表現の可能性を広げる必要がある。したがって、特に外国語活動での経験と共通する事項の多い第1学年については、年間指導計画や教科書の題材、新出の文法事項を整理し、慣れ親しんだ語彙・表現を効果的に活用できるような指導計画を作成する必要がある。

(3) 外国語活動の共通教材英語ノートで取り扱われる語彙・表現

外国語活動における共通題材は、「英語ノート」であることから、そこで取り扱われる語彙や基本的な表現を整理しておくことは、大変有意義である。なお、外国語活動においては語彙という表現は使われないが、本論文においては外国語活動で取り扱われる単語の集まりを「語彙」と表現し、慣用句を含む英語の文等を「表現」と表した。

英語ノートにおいて使用される語彙は 285 語であり、身近なものや日常的なものを表現する語彙に慣れ親しんでいる。一部を抜粋したものが表 2 である。外国語活動では児童にとって関心の高い事柄を取り扱うため、身の回りの物など名詞が多い。中には身近なものではあるが、中学校の教科書で取り扱われていない単語に触れている場合もある。例えば、外国語導入以前に一般動詞の文法事項“I like apples.”を導入する際、I like に続く名詞をまず教える必要があったが、外国語活動を経験した生徒は、語彙の知識があり、その活用が可能である。

表 2 英語ノート等で取り扱われている語彙（一部抜粋）

品詞	単語の分類	中学校教科書でも扱う単語	中学校教科書では扱わない単語
名詞	数字 序数	one / two / three ~one hundred first / second / third ~thirty-first	
	動物	dog / cat / bird / fish / koala /kangaroo / horse	camel / giraffe / hippo / penguin/ rabbit / sheep / bear 等 13 語
	食べ物(に關する語)	apple / ice / cake / juice / fruit / orange / lunch / dinner	cabbage / cream puff / omelet/ pudding / salad / gratin / spaghetti / namul / yogurt / croissant / miso soup / rice balls 等 32 語
	曜日／月名	Sunday ~ Saturday January ~ December	
	施設・建物	bank / store / shop / restaurant /department store / park	barbershop / castle / police box 等
	職業名	doctor	astronaut / baker / cook / vet / nursery school teacher /racing driver / sumo wrestler /cartoonist / zoo keeper 等 38 語
形容詞	挨拶	fine / hungry / happy / sleepy	
	ほめる場面で使われる語	cool / cute / nice / very well / beautiful	
動詞		want / sing / study / swim / teach / eat / walk / follow / turn / go / stop / speak / clean / watch / look	roll / follow / pull

※中学校教科書は Sunshine English Course 1～3 を参照した。

基本的な表現は、表 3 のようにまとめられる。中学校では文法事項が考慮され、一つずつ階段を上がるように配列されているのに対して、小学校では活動に適した表現が示されている。表現は I を主語とし、自分の好みや気持ちなどについて話す表現や you を用いて相手のことを尋ねる表現が大半である。三人称(he, she)を含む表現はほとんど扱われていない。表現については概ね中学校第 1 学年で学習するものがほとんどであるが、文法事項を少しずつ理解していく配列ではなく、児童に興味・関心のある事柄について伝え合う活動を行うことから、自分の希望を表す“I want to be a doctor when I grow up.”のように中学校第 2 学年で学習するものも取り上げられている。

英語ノート1 表3 英語ノートで取り扱われている表現（一部抜粋）※Pはプログラムを表す

単元	タイトル	主な指導内容	使用表現等	中学校で導入する時期	
1	世界の「こんにちは」を知ろう	世界のさまざまな挨拶	What's your name? My name is Ken. Nice to meet you. 等	what の疑問文 (be 動詞) 自己紹介	1 年 P 2 1 年 4 月
2	ジェスチャーをしよう	ジェスチャーを用いた表現	How are you? I'm happy. 等	挨拶	1 年 4 月
3	数で遊ぼう	20 までの数を用いた活動	How many? Five. 等	数に係る表現	1 年 P 4
4	自己紹介をしよう	好き嫌いを用いた対話	Do you like apples? Yes, I do. / No, I don't. I like bananas. Thank you. 等	一般動詞	1 年 P 3
5	いろいろな衣装を知ろう	衣服の言い方や買う時の表現	I don't like blue. 等	一般動詞	1 年 P 3
6	外来語を知ろう	外来語とその由来の語	What do you want? Melon, please. 等	what の疑問文 (一般動詞)	1 年 P 3 want は 2 年
7	クイズ大会をしよう	What's this? を用いた活動	What's this? It's a pencil. 等	what の疑問文 (be 動詞)	1 年 P 2
8	時間割を作ろう	オリジナル時間割の作成・発表	I study Japanese. 等	一般動詞	1 年 P 3
9	ランチ・メニューを作ろう	食べ物を通じた異文化理解	What would you like? I'd like juice. 等	would you like~ I'd like	1 年 P 4 扱わない

英語ノート2

単元	タイトル	主な指導内容	使用表現等	中学校で導入する時期	
1	アルファベットで遊ぼう	アルファベットの大文字	What's this? It's ~. A ~ Z 等	アルファベット	1 年 4 月
2	いろいろな文字があることを知ろう	21~100 の数字 アルファベットの 小文字	What's this? It's ~. a ~ z 等	アルファベット	1 年 4 月
3	友達の誕生日を知ろう	季節の行事や月の名前、誕生日	When is your birthday? My birthday is March 3 rd . 等	when の用法 月名	1 年 P 6 1 年 P 4
4	できることを紹介しよう	できることを尋ねたり、伝えたりする。	Can you swim? / Yes, I can. / No, I can't. / I can swim. / I can't swim. 等	can の用法	1 年 P 9
5	道案内をしよう	建物の名前や道案内に関係する表現	Where is the flower shop? / Go straight. / Turn right(left) / Stop. 等	where の用法 道順に係る表現	1 年 P 5 3 年 P 7
6	行ってみたい国を紹介しよう	行きたい国やその理由	I want to go to Italy. / Let's go. 等	want to Let's	2 年 P 6 1 年 P 4
7	自分の一日を紹介しよう	時間、一日の生活の表現	What time do you get up? At 7:00. / I go to bed. 等	時間に係る表現	1 年 P 2
8	オリジナルの劇をつくろう	世界の民話、劇の発表	Please help me. What's the matter? 等	命令文	1 年 P 5
9	将来の夢を紹介しよう	自分の将来の夢のスピーチ	What do you want to be? I want to be a teacher. 等	want to be	2 年 P 6 1 年 P 7

2 実態調査の分析と考察

(1) 調査の視点

外国語活動の実態を把握する上で、生徒の意識、小学校での指導の実際、共通教材である「英語ノート」等で取り扱われている語彙・表現といった視点から実態調査を行った。

ア 生徒の外国語活動への意識

本校生徒は4小学校から入学し、外国語活動の指導者や教育課程が異なり、外国語活動に対する生徒の意識や関心が異なることが予想されたので、生徒への実態調査が必要であると考えた。このことから外国語活動への意識、中学校英語への意識、具体的に活用していた教材等において印象に残っていることについて調査した。

イ 生徒の出身小学校での外国語活動の実際

授業参観及び聞き取り調査においての主な視点は次の3点である。

第1に、使用している教材についてである。生徒がどのような語彙・表現・題材等を含む教材に触れており、どのような環境や頻度で英語に触れているのかを確認した。

第2に、クラスルーム・イングリッシュについてである。4月、新1年生は未習であっても期日や天候を尋ねる一連の授業開始の挨拶を、問題なく行うことができた。教材外で生徒が慣れ親しんでいるクラスルーム・イングリッシュを確認し、活用する必要性を感じた。

第3に、授業でよく行われている活動についてである。外国語活動導入以前の生徒と違い、ゲームの主旨やルールを説明すると積極的に取り組もうとする理由の一つは、外国語活動においてコミュニケーションを図る活動に慣れ親しんでいることも要因の一つであると考えた。そのため、具体的にどのような活動を用いて、授業が行われているのか確認したいと考えた。

(2) 外国語活動及び中学校の英語に関する意識調査

本研究を進めるに当たり、町内の4小学校から入学してきた本校第1学年61名に対し、英語を「話すこと」への意識や外国語活動への意識等について5月下旬に調査を行った。

ア 英語学習に関する生徒の意識調査

(ア) 図2のように、英語を「話すこと」に自信が「ある」「ややある」と答えた生徒は38.7%に留まる。他の調査項目から9割を超える生徒が授業を楽しみと感じてはいるものの、発話に関しては半数以上の生徒が自信がないと回答している。生徒が具体的に「話すこと」ができると考えている話題等は以下のとおりである。

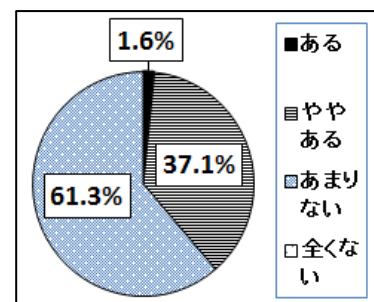


図2 英語学習に関する生徒の意識調査「英語を話すときに自信がありますか」

《生徒が話せると自覚している具体例》
自己紹介とあいさつ（半数以上が回答）、友達の紹介（8名程度が回答）、簡単な質問、好きなもの、～は何ですか、好きな色、ものの名前や数字（少数意見）

(イ) 図3では、80%を超える生徒が「外国語活動が役立っていると思いますか」という質問に、「いつも思う」「よく思う」と答えている。調査が実施された5月は身近な英単語や英語での教師の指示などが音声を通してよく理解できたため、小学校で慣れ親しんだ表現が多く生かされている時期であり、学習に対する自信や有用感をもったと思われる。また、検証授業Ⅱ後のアンケートにおいても、「小学校で習ったことがたくさん出てきていて、とても分かりやすかった。」「外国語活動が役に立って発表の文が書きやすかった。」など、8割を超える生徒が肯定的に受け止めていた。

また、アンケートの生徒の意見の中には「小学校で習った単語は、していない単語より覚えやすい。」というものが

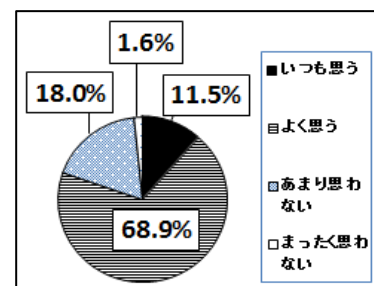


図3 外国語活動に対する生徒の意識調査「外国語活動は英語学習に役立っていると思いますか」

複数あった。言語学習の特徴としても、単語や表現に触れる頻度の多さが学習効果を上げられると思われるため、小学校で幾度となく音声を通して触れた語彙・表現を、文字との結び付きや正しい文法事項としての理解を意識させながら再度学ぶことは、有用性が高いと思われる。

《具体的に役立っている点（生徒記述）》
 小学校で習った単語やアルファベット※¹が出てきた（多数）。/ 授業の挨拶が同じだ。/ 小学校での発音が役立っている。小学校で習った単語※²は習っていない単語より覚えやすい。

※¹ アルファベットについては、小学校では大文字と小文字の読みが中心である。

※² 教科書 **Let's Start 3** の単語を覚える際、感じたようである。

例;apple,orange,juice,lunch,name,book,pencil,summer,tennis,music 等

(3) 校区内小学校の外国語活動の状況

5月下旬、小学校6年生の学級担任等から現状についての聞き取り及び授業参観を行った。

ア 主な活動及び教材

授業においては、主としてゲーム等児童の興味・関心に合わせ、ねらいとする語彙に慣れ親しむための活動が行われている。各学校、英語ノートが年間指導計画に位置付けられ、学校の現状に合わせて題材の取捨選択が行われている。

中学校の指導者が押さえておきたいことは次の2点である。

まず、学校によって学ぶ題材が異なるため、複数小学校より新入生を迎える中学校の場合出身小学校によって生徒の経験に差があることが考えられる点である。

次に、小学校外国語活動は、外国語へ慣れ親しむ活動を通して、積極性や体験的理解を得させるものであることから、中学校の指導は生徒が経験した語彙・表現を覚えていることを前提としてはならない点である。このため、外国語活動の語彙・表現を活用する際は、事前にアンケート等を用いて生徒の慣れ親しみや記憶の程度を把握しておく必要がある。

イ 学級担任の役割とクラスルーム・イングリッシュ

学級担任は授業計画を立て、指導の主導的な役割を担っている。児童への称賛や表現のモデルとなる場合は、積極的に英語を使用する姿勢が見られる。ALTとのチーム・ティーチング時は、英語の発音等や活動のモデルをALTに担当させ、学級担任は、挨拶やほめ言葉を用いて授業展開し、児童をリードしていた。

表4 主なクラスルーム・イングリッシュ

stand up / sit down /O.K./ good /Open your book.
 Rock, scissors, paper, go! (ジャンケン)/Ready, go!
 Stop the game.等

表5 導入場面での挨拶

中学校においても継続して使用できるクラスルーム・イングリッシュは表4のとおりである。表5の導入場面の挨拶は4小学校共通である。

T: Who's today's class leader?	T: I'm fine, thank you.
S: I am. Stand up, please.	T: What day is it today?
Let's begin!	S: It's Monday.
T and S: Let's begin!	T: What date is it today?
S: Good morning Ms.Kawahara.	S: It's November 28 th .
T: Good morning, everyone.	T: How's the weather is it today?
T: How are you?	S: It's sunny and cold.
S: I'm fine, thank you. And you?	T: OK. Sit down please.

3 中学校第1学年での「話すこと」における到達目標と年間指導計画

外国語活動は、音声を中心とした活動を通して、コミュニケーションへの積極的な態度を育成し、言語や文化等について体験的理解を深めることを目的としている。教材として用いられる英語ノートでも児童の趣味・関心に基づき、食べ物やスポーツといった身の回りの話題について英語で聞い

たり話したりする活動が主として行われていることから、「話すこと」に着目することで外国語活動の経験を生かしやすく、中学校で学ぶ表現や文法事項を取り入れた、必然性のある使用場面等に配慮した言語活動を設定することで、その定着が容易になるのではないかと考える。「話すこと」の指導に当たり、中学校3年間の見通しをもち、各学年の目標を設定した上で外国語活動の成果を生かせる中学校第1学年の指導について考える 《中学校学習指導要領 「話すこと」の指導事項》 必要がある。

(1) 「話すこと」の到達目標

ア 中学校学習指導要領における「話すこと」の目標は、外国語活動を踏まえ「初歩的な英語を用いて、自分の考えなどを話すことができるようにする」である。また、「話すこと」の指導事項は右の5点である。3年間を通して言語の使用場面に即した語彙・表現の活用機会を多くもつことで話す力が向上すると考えられる。

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。
- (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。
- (エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。
- (オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

イ 「話すこと」の到達目標の設定

「話すこと」とは、単に与えられた語句や文を繰り返すことだけでなく基礎的な知識や技能を定着させるとともに、「聞き手を意識して、自分の気持ちや考えを適切に伝えたり、聞き手と協力して意見を述べ合ったりすること」を意味していると捉えている。この考え方を基に学習指導要領の「話すこと」の指導事項及び教科書の題材を基にして、英語を用いてコミュニケーションを図る能力の育成を念頭においた「話すこと」の学年別到達目標を表6のように設定した。

表6 「話すこと」の学年別到達目標

1年	・挨拶などの定型表現ができる。 ・自分の好みや気持ちを表すことができる。
2年	・情報を得ることができる。 ・事実を描写することができる。 ・行動の目的や理由を述べることができる。
3年	・意見や感想及びその理由付けができる。 ・話の内容のまとまりや構成を意識しながら「話すこと」ができる。

(2) 英語ノート等の語彙・表現を活用する中学校第1学年の「話すこと」

第1学年での学習は当然のことながら、第2・3学年の英語学習の基礎となる。第1学年の学習においては、複雑な文構造等は取り扱われていないことから、対話の機会を多く設け、コミュニケーションを図る中で「話すこと」を通じて、文法事項に気付かせたり、語彙の幅を広げたりすることが効果的であると考え、第2・3学年の学習においても、第1学年次に学習した実感を伴った学びが役立つと思われる。

中学校での「話す活動」の充実において、自己表現するために必要な語彙・表現が不足していることがよく取り上げられるが、英語ノート等の語彙・表現を生かすことが、この課題の手立てとなると考えられる。外国語活動と中学校英語の接続期とも言える第1学年次は、小学校の学びも残っておりそれらを想起させやすい。中学校第1学年において、小学校で慣れ親しんだ語彙を活用することで、発話内容の質や量の向上を図ることができる。

(3) 外国語活動を位置付けた「話すこと」の年間指導計画

中学校第1学年での「話す活動」は、先に挙げた到達目標にあるように挨拶などの定型表現や自分の好みや気持ちを表す活動を主として行うことが適当であると考え。したがって、教科書の題材や言語材料と利用できる英語ノート等の語彙・表現を把握し、言語の使用場面を設定していくことが必要である。言語の使用場面に即して、中学校で未習であっても外国語活動の表現や語彙を用いることで「話す活動」の充実を図ることができる。そのためには、英語ノー

ト等で取り扱った語彙・表現をあらかじめ年間指導計画の適切な単元に位置付けておくことが重要である。

表7は「話すこと」の年間指導計画と利用可能として選択した英語ノートのレッスン・活用可能な語彙・表現を示したものである。教科書の題材やねらいとする文法事項を生かせる言語活動と外国語を活用する効果を照らし合わせ、最も効果的であると思われるプログラムを5つ選択した。「話す活動」に必要な時間とその効果を予想すると、全てのプログラムにおいて実施するのではなく、外国語活動の語彙・表現を多く活用できるプログラムや、生徒の学習状況に応じた時期や場面で実施する方が有効であると考えられる。

表7 英語ノート等の語彙・表現を位置付けた「話すこと」の年間指導計画

学期	Program(Sunshine English Course 1)	設定した目標	活用できる外国語活動の語彙・表現 (英語ノート1・2)
1	3 シンガポールからのお客さん	自分の名前や好きな物・スポーツ等することなど自己紹介ができる。	「1 L 4 自己紹介をしよう」 「2 L 9 将来の夢を紹介しよう」 ○ 上記外に使用可能な表現等 挨拶、食べ物、スポーツ、動物、色、教科等の名前
	4 キャンプの準備	「キャンプに持っていくもの」についてペアでの対話を発表することができる。	「1 L 4 自己紹介をしよう」 「1 L 9 ランチ・メニューを作ろう」 ○ 食べ物の名前
2	6 シアトルでの一日	友達について好きなことやよくすることなど紹介できる。	「2 L 3 友達の誕生日を知ろう」 ○ 食べ物、スポーツ、動物、色、教科等の名前
	7 A Day at the Rodeo	行きたい外国やそこでやってみたいことなど課題文に加えてスキットを作成しペアで発表できる。	「2 L 7 自分的一天を紹介しよう」 ○ 建物、挨拶、食べ物、スポーツ、動物、色、教科等の名前
3	9 Yuki talks about Kanzi	can を用いて友達の得意なことや将来の夢について話せる。	「2 L 4 できることを紹介しよう」 ○ スポーツ、食べ物の名前等

4 英語ノート等の語彙・表現を活用した「話す活動」の工夫と単元の指導計画

(1) 「話す活動」の充実を図る単元の指導計画

表8 外国語の学びを「話す活動」に活用する手順

① 単元目標に照らした言語活動の設定 ② 単元目標に照らした「話す活動」のモデル文を設定 ③ 単元指導計画の作成（ここでは一単元全5時間を想定）				
時 数	「話す活動」	英語ノートの語彙・表現の想起と活動		文法事項
		「言語の使用場面」	文法事項の認識	
第1時 ↓ 第3時	《10分程度の対話活動》 本単元で主に使用する語彙・表現を英語ノートより選出し、インタビュー・ゲーム等を行う。活用できる語彙・表現を積み重ねながら対話量を増やすなど、不十分である部分を補足する。	語彙・表現の想起を音声や絵を用いて行う。定着を図るために外国語活動で行ったゲーム等も用いる。	ねらいとする文法事項を含む表現を英語ノートの教材を用いて想起させ、音声と文字の連結や語順等英語のルールを認識させる。	新出文構造等の理解と練習を行う。
第4時	《スキットやスピーチ等の作成》 これまでの10分間対話や新出文構造の理解と練習を活用し、指導者が指示したテーマに沿って対話文や自己表現の文を指定数作成する。形態はグループ・ペア・個人など生徒の習熟度や課題の難易度によって決定する。			
第5時	《スキットやスピーチの発表会と評価》 学級全体で発表し、自己評価や相互評価を行う。			

「話す活動」において、教科書の本文の言語材料に外国語活動の学びを取り入れるためには、使用する語彙・表現に習熟し、自信をもって対話活動ができるよう継続的に指導する必要がある。そこで、これまで単元の終末に集中して行ってきた表現活動を見直し、「話す活動」の中心テーマについて、各時間の授業始めに継続的に指導していく方法が有効であると考えた（表 8）。

外国語活動の学びを活用する上で、最も大切なことは、外国語活動に合わせた指導ではなく、中学校の単元の目標に照らして目指す生徒の姿を設定した上でその活用を図ることである。活用の大きな柱としては「言語の使用場面に照らして活用させる工夫」と「文法事項を正しく認識させる工夫」が考えられる。

(2) 英語ノート等で触れてきた語彙・表現の把握と想起

英語ノート等の語彙・表現を言語の使用場面に照らして活用する工夫と文法事項の正しい認識に活用するためには、生徒の中にどの程度の学びが残っているのかを把握し、それらを無理なく生徒に想起させるよう指導することが大切である。活用にあたって、行わなければならない英語ノート等の語彙・表現等内容の選出、生徒の理解の把握、「話す活動」につなげる想起の方法について、以下のように考える。

まず、把握すべき内容について検討する際には、中学校英語の目標達成のために外国語活動を活用するという視点が大切である。指導対象である単元目標に基づいた言語活動において、活用可能な題材や語彙・表現等を、主たる教材である英語ノート等から選出する。また、英語ノート以外にも取り扱われた語彙・表現も考えられることから、事前のアンケートも必要である。

次に、選出した語彙・表現についての理解の度合いの把握である。把握は外国語活動の音声や絵を提示しながら、これらの英語を使って活動したことがあるか問うなど、視覚・聴覚の感覚に訴えたと有効に行うことができる。

想起させる方法については、生徒の負担が軽く短時間でできるものが望ましい。外国語活動で取り扱われた語彙・表現をイメージさせる絵を提示したり、音声に触れさせたりする指導を行うことが有効である。また、活用したい語彙・表現をミッシング・ゲーム、キーワード・ゲーム、3ヒント・クイズなど経験した活動を用いると楽しみながら語彙・表現を想起し、「話す活動」に活用できる状態に高めることができると思われる（表 9）。

表 9 外国語活動の学びの想起の工夫

音声による想起	・英語ノートデジタル版やCDの音声 ・チャンツや歌のようなリズムをもつ音声 等
視覚を通しての想起	・英語ノートで使用されている絵 ・外国語活動で使用された教材 等
体験したゲーム等	※外国語活動において、想起させたい単語等を使用 ・聞く活動 → ビンゴ、ステレオゲーム、指さしゲーム、カルタ ・慣れる活動 → チャンツ、集中力ゲーム、キーワード・ゲーム、ミッシング・ゲーム、メモリーゲーム、 ・表現する活動 → 3ヒント・クイズ、ロール・プレイ、スキット 等

(3) 言語の使用場面に照らして英語ノート等の語彙・表現を活用させる工夫

英語ノート等の語彙・表現を活用し、「話す活動」を充実させるには、これまで設定してきた対話活動にどのような小学校の内容を取り入れるかを考えることが必要である。例えば、これまで一般動詞の導入後の自己紹介を行う場面では、外国語活動を取り入れなければ表 10 左のように教科書本文を元にした一定の表現となるが、外国語活動の学びを取り入れると表 10 右のように自分の好きなものや将来の夢も取り込むことができる。□の部分は外国語活動の学びを活用して作成できると考えられる部分である。外国語活動導入以前の第 1 学年であれば、1 学期の自己紹介では教師が示す例文を多少入れ替える程度のものしかできなかったが、外国語活動を経験した生徒は好きな動物・食べ物・スポーツ・色等、外国語活動において音声で得た単語を用いて、自分を表現することができる。また、自分自身について話す表現に慣れ親しんでいれば、「自分

ができること」,「自分がしたいと思っていること」など表現内容を広げることができる。

表 10 外国語活動導入前後に予想される「話す活動」の内容の変化

題材	Program 3 「シンガポールからのお客さん」 Sunshine English Course 1	
	教科書本文 Good morning, everyone. My name is James Chen. I'm from Singapore. It's a beautiful country. I speak Chinese and English. I'm a college student in Japan. Thank you.	
目標	自己紹介をしよう	
作成例	外国語活動導入前	外国語活動導入後
	Good morning, everyone. My name is Yuki. I'm from Kamikawa. It's beautiful. I speak Japanese. I'm a junior high school student. Thank you.	Good morning, everyone. My name is Yuki. I'm from Kamikawa. I play baseball. I like Fukuoka Softbank Hawks. I want to go to Fukuoka. I want to watch a baseball game. Thank you.

※「話すこと」の第1学年の目標に準じ,自分の好みや気持ちを表す play や like, want to の活用を設定した。

(4) 英語ノート等の語彙・表現を活用して文法事項を正しく認識させる工夫

生徒は小学校5・6年生の外国語活動の経験により多くの基本的な表現に触れてきている。音声によって慣れ親しんだ英語を活用することで,語順や語形変化といった英語のルールを教え込みではなく気付かせることにより効果的な文法事項の指導を行うことができる。図4はその手順を示したものである。

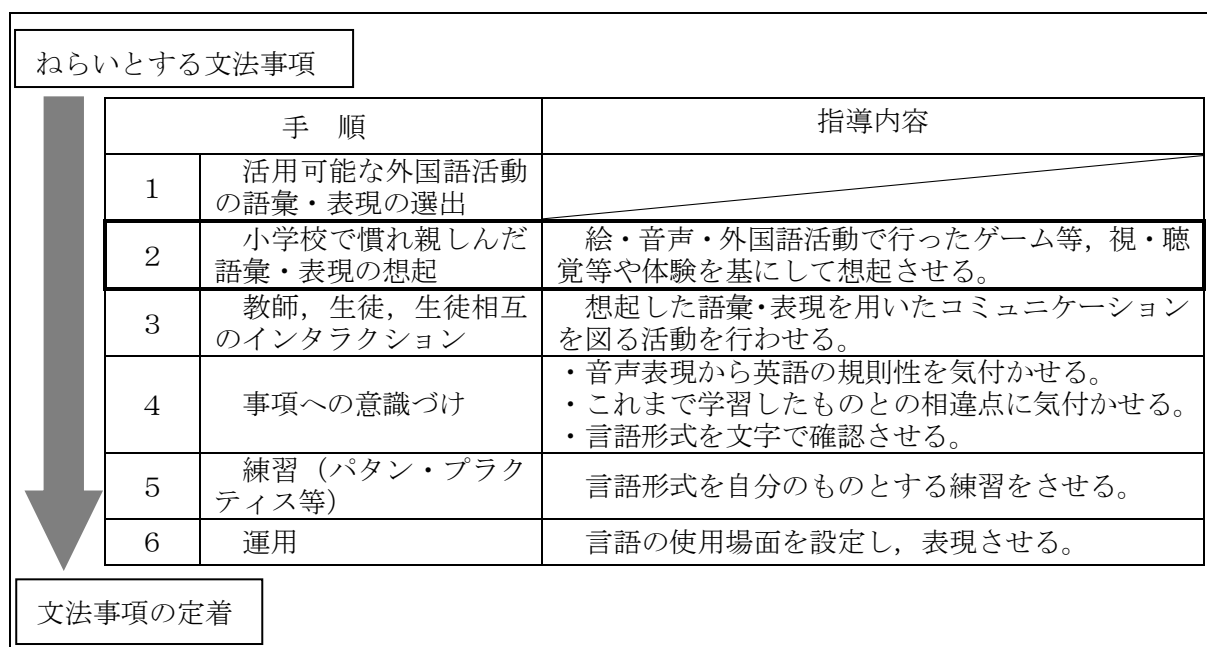


図 4 文法事項を正しく認識させる手順

例えば, 複数形を導入する場合, これまでは取り扱う物の英語名を確認することから始めなければならなかったが, 外国語活動を経験した生徒は, 既にある程度, 身近な物の名前に触れてきているのでそれらの語彙が活用できる。例えば, 外来語について学ぶプログラムでは可算名詞, 不可算名詞, スポーツ名や複数形に変わる際の特殊な変化のルールがあるものなど幅広く扱われている。しかし, ほとんどの生徒は外国語活動の学びの中では, 複数形の[s]の発音には気付いていない。そこで, 中学校では外国語活動で経験したチャンツを再度行い, 複数形の語形変化に着目して変化に気付かせ, 主体的な理解によって学びを深めることが有効である。

表 11 のように、小学校で音声で慣れ親しんだ語彙・表現について、中学校での文法事項の導入という視点から表現を整理して指導することが英語の学習上効果的であると考えます。

表 11 中学校の教科書で活用できると考えられる英語ノート等の語彙・表現の活用

Pro.	タイトル	導入する文法事項		活用できる英語ノート等の語彙・表現
1	パーティーで英語を話す	be 動詞	I am ~. / Are you ~? / This is ~.	「2 L9 将来の夢を紹介しよう」 活用例：職業名を用いて、なりきり自己紹介や対話活動を設定する。
2	アンディー、武史の家へ行く	be 動詞 / What+be 動詞の疑問文	Is this ~? / He [She] is ~. / What is ~?	「1 L5 いろいろな国の衣装を知ろう」 活用例：色や衣装の名前を用いて What's this? It's a red shirt.のような問答に習熟させる。
3	シンガポールからのお客さん	一般動詞 / what + 一般動詞の疑問文	I play ~. / Do you ~? / What do you ~?	「1 L4 自己紹介をしよう」 「2 L9 将来の夢を紹介しよう」 ・ 上記外に使用可能な表現等…あいさつ、食べ物、スポーツ、動物、色、教科等の名前
4	キャンプの準備	複数形 / 数に関する表現 / who	brothers / How many ~? / Who is ~?	「1 L4 自己紹介をしよう」 「1 L9 ランチ・メニューを作ろう」 ・ 食べ物の名前
5	由紀、シアトルに行く	命令 / which / where	Speak ~. / Which bag is ~? / Where is ~.	「2 L5 道案内をしよう」 活用例：建物の名前や道案内の指示を用いて、対話活動を行う。
6	シアトルでの1日	三単現 / when	He loves ~. / Does he ~? / When do you ~?	「2 L3 友達の誕生日を知ろう」 ・ 食べ物・スポーツ・動物・色・教科等の名前
7	A Day at the Rodeo	過去形 / how long	I played ~. / Did you ~? / How long ~?	「2 L7 自分の一日を紹介しよう」 ・ 建物、あいさつ、食べ物、スポーツ、動物、色、教科等の名前
8	Clean Energy	所有 / whose / 代名詞	my brother's car / Whose bag ~? / him, her	「2 13 カレンダーを作ろう」 活用例：家族に関する表現や英語ノートで経験した名詞を用いて、所有に関する言語活動を設定する。例 Whose camera is this? It's my brother's.
9	Yuki talks about Kanzi	can / how+一般動詞の疑問文	I can ~. / Can you ~? / How do you ~?	「2 L4 できることを紹介しよう」 ・ スポーツ、食べ物の名前等
10	A Busy and Happy Morning	現在進行形	I am studying ~. / Are you studying ~? / What are you doing?	「2 L7 自分の一日を紹介しよう」 ・ 一日を表す動詞を活用して進行形の言い方に習熟させる。

※Program 3, 6, 9の活用法は P14~16 を参照 ※program 4, 7は検証授業（P17~25）を参照

5 「話す活動」の単元のモデル

上記の年間指導計画から自己紹介に係る Program 3, 第三者の紹介に係る Program 6, できることについて述べる Program 9について前述の英語ノート等の語彙・表現を活用する視点から「話すこと」の指導モデルを作成した。

(1) 自己紹介に英語ノート等の語彙・表現を活用する例

Program 3 シンガポールからのお客さん

(第1学年1学期)

「話す活動」の目標		自己紹介についての定型表現を知り、自分の好みなどについて自己紹介ができる。			
課の概要		シンガポール出身の留学生のチェンさんが、総合的な学習の時間にやってきて自己紹介をする。生徒はチェンさんに好みや話す言語、日本で学んでいることについて質問する。主な言語材料としては一般動詞とWhat do you ～?である。			
「話す活動」の内容		各時間の冒頭に食べ物、誕生日、好み、将来の夢の4種類程度のテーマに基づいたインタビュー等言語活動を設定し、単元終末で自己紹介を行う。			
英語ノート等の語彙・表現を取り入れる価値		①音声で知っている I like ～.の文を文法事項として理解することで習得がより容易になる。②自分のことについて教科書の使用のみよりも幅広い語彙・表現で表現できる。			
指導計画					
時数	「話す活動」	使用する表現(例)	英語ノート等の語彙・表現の想起と活用		導入する文法事項
			「話す活動」への活用	文法事項の認識	
1	I like ～を用いた対話	Gratin and cream puff are from France. I like ～.	食べ物に関する語の絵をプロジェクターや紙で黒板上に示しながら発音することで想起させる。 出身の言い方を Let's listen を聞くことで想起・利用させ、自分のことについて言えるようにする。	I like ～.を英語ノート のLet's listenを聞くことで想起させ、文法事項に気付き、左の「話す活動」で用いた食べ物を利用して自分の好みを言えるようにする。	I play soccer.
2	誕生日の対話	When is your birthday? My birthday is March 3 rd .	月名や数字等を英語ノート の月をイメージさせる絵を用いて発音することで想起させ、自分の誕生日を言えるようにする。	英語ノートLet's chant を聞き、相手の好みを尋ねる問答を想起させる。文法事項に気付き、用法に習熟する。	Do you speak Japanese? Yes, I do. / No, I don't.
3	好き嫌いについての対話	I like baseball. I don't like soccer.	第1時で使用した食べ物に加え、自分の好き嫌いについて自由に述べさせる。(like, don't like の用法のみ重要視し、名詞の複数表現等にはこだわらない。)	好きな物をwhatを用いて尋ねる問答を英語ノート Let's listen2を聞いて想起させ、実際に対話し、文法事項に気付かせる。その後用法を練習する。	What do you study?
4	将来の夢 1 職業名	baker, zookeeper, vet	英語ノート の絵を用いて、ゲーム等行うことで職業名を想起し、反復練習する。		
5	将来の夢 2 問答	What do you want to be? I want to be a baseball player.	Let's listen を聞いて Want to be を想起し、将来の夢について問答する。 第3時で導入した What do you study? との関連を意識させる。		
6	自己紹介の文を作成し、発表の練習をする。		使用する表現(例) 出身、誕生日、好きな食べ物、将来の夢		
7	聞き手を意識しながら、自己紹介を表情など表現に工夫して発表できる。単元のまとめをする。				
活用する外国語活動の語彙・表現			I like apples. I don't like blue. My birthday is ～. 食べ物の名前、色、日付、等		
作成モデル文 (※□部分が考えられる作文例)			Good morning, everyone. My name is (Yuki). I'm from Onejime. My birthday is March 3 rd . I like gratin. I don't like onions. I like baseball. I play baseball everyday. Thank you.		

(2) 友人を紹介する文構造の導入に英語ノート等の語彙・表現を活用する例

Program 6 シアトルでの1日

(第1学年2学期)

「話す活動」の目標		三人称の主語を用いて、友達を紹介できる。			
課の概要		由紀が旅行先のおばの住むシアトルで、展望タワーに上ったり土産を買うなどして過ごす内容。主な言語材料としては三人称単数形と When do you ～? である。			
「話す活動」の内容		第1時から第4時まで好きな教科、好きな食べ物、誕生日、できることなどについての質問と答え方に習熟し、第5時にはペアを組み、それらの対話を通して相手についての情報をまとめる。第6時で表現法を含め発表の準備をし、第7時で発表する。			
英語ノート等の語彙・表現を取り入れる価値		①音声で知っている I like ～ の文と三単現の S のついた文と比較にその変化に着目することで主体的な学びができる。②友達のことについて幅広い語彙・表現で表現できる。			
指導計画					
時数	「話す活動」	使用する表現 (例)	英語ノート等の語彙・表現の想起と活用		導入する 文法事項
			「話す活動」への活用	文法事項の認識	
1	友達の好きな教科について発表	Yoko likes Japanese. She likes reading.	英語ノート Let's listen を聞いて、教科の名前を想起させ、好きな教科についての問答を行う。質問した相手について3人称単数形を用いて全体で紹介する。		My brother loves baseball.
2	食べ物についての対話	Do you like ice cream? Does ○○like ice cream? Yes, he likes chocolate.	英語ノートの絵を用いて発音し食べ物名を想起させ、相手の好みについて問答を行わせる。全体で各生徒の好みについてクイズを行う。		Does Tom like music? Yes, he does. / No, he doesn't.
3	誕生日の対話	When is Yoko's birthday? Yoko's birthday is May 3 rd .	英語ノートの絵を用いて月名を想起させる。英語ノート activity を聞いて序数を想起させ、誕生日に関する問答を行わせる。聞いた相手の誕生日についての問答を行う。		When do you study?
4	出来ることについての対話	Can you swim? Yes, I can.	3学期に can を学ぶため、 can の対話文を想起・経験しておく。		
5	発表に向けてペアを組み、お互いにインタビューする。インタビューをまとめ、友達を紹介する文を作成し、発表の練習をする。			使用する表現 (例) これまで学習した表現を総合的に活用する。	
6	聞き手を意識しながら、友達の紹介を声量など表現に工夫して発表できる。				
7	単元のまとめをする。				
活用する外国語活動の語彙・表現			I study Japanese. I like apples. I can swim. 教科名, 食べ物の名前, 誕生日, など		
作成モデル文 (※□部分が考えられる作文例)			Good morning, everyone.		
			My friend is Yoko. She likes Japanese. She can swim well. She likes ice cream. She doesn't like kimchi.		
			Thank you.		

(3) 文法事項 (can) の導入に英語ノート等の語彙・表現を活用する例

Program 9 Yuki Talks about Kanzi

(第1学年3学期)

「話す活動」の目標		友達の得意なことについて話すことができる。			
課の概要		由紀が英語を理解できる類人猿の一種であるボノボの Kanzi について調べた内容を発表し、質疑応答する。主な言語材料としては can を用いた表現と How を用いた問答である。			
「話す活動」の内容		第1時から第4時まで自分や自分ができることとそれを生かした将来の夢について言語活動を積み重ね、第5時でお互いのできることと夢についてインタビューし、第6時でインタビューをまとめ、第7時に発表する。			
英語ノート等の語彙・表現を取り入れる価値		①音声で知っている can を用いた文を文法事項の視点から整理し、活用できる。②将来のことについて表現する文を用いて、自分や友達ができることと将来の夢について関連付けて表現できる。			
指導計画					
時数	「話す活動」	使用する表現（例）	英語ノート等の語彙・表現の想起と活用		導入する文法事項
			「話す活動」への活用	文法事項の認識	
1	できることについての対話	I can do judo.	can の対話を英語ノートの Let's Chant. を聞いて想起させ、文法事項を整理させ、「できること」について問答させる。		I can play the guitar.
2	将来の夢についての対話	I want to be a judo teacher. I want to do judo in a high school.	できることを将来の夢に結びつけた対話を行う。		Can you swim? Yes, I can. / No, I can't.
3	How do you ～？を用いた対話	How do you do judo? I do judo with police officers.	How many?等漢字の画数を当てるゲームを行い, how を用いた対話を想起させ, How の意味について理解し, 対話練習を行う。		How do you study English?
4	出来ることについて対話	What can you do? I can do judo. I want to be a judo teacher.	What can you do? に対してこれまでの対話から, その質問への回答を考え, 対話を行う。		
5	①発表に向けて, ペアを作りお互いにインタビューする。②インタビューをまとめ, 対話相手の夢についての文を作成し, 発表の練習をする。				
6	聞き手を意識しながら, 友達の夢を表情など表現に工夫して発表できる。				
7	単元のまとめを行う。				
活用する外国語活動の語彙・表現			I can swim. I want to be a teacher. 職業名など		
作成モデル文 (※□部分が考えられる作文例)			Good morning, everyone.		
			Iya can do judo. She wants to be a judo teacher. She goes to the Onejime police station. She plays judo with police officers. They are good teachers. She likes them.		
			Thank you.		

6 検証授業の実際と考察

本校1年2組(30人)において7月に検証授業Ⅰを、11月に検証授業Ⅱを行った。

検証授業Ⅰ・Ⅱを通して、次の3点を指導の視点として、英語ノート等の語彙・表現を用いて「話す活動」の充実に外国語活動が有効であることについて検証を行った。

- ・「話す活動」の充実に意図した単元の指導計画の工夫
- ・言語の使用場面に照らした活用の工夫
- ・文法事項を正しく認識させる工夫

(1) 検証授業Ⅰ

ア 授業の概要

(ア) 単元名 Program 4 キャンプの準備 (Sunshine English Course Book 1 開隆堂)

(イ) 授業のねらい

単元の指導計画の中に英語ノート等の語彙・表現を活用した「話す活動」を計画的に配置し、対話活動の積み重ねにより、生徒の対話の量や質がどの程度向上するかを検証する。言語の使用場面として教科書の題材と関連させ、キャンプの準備について話し合う場面を設定した。与えられた文に続けて、6往復程度の対話を作成することを目標に、第1時から第3時に好きな食べ物や月の名前などについての「話す活動」を設定するに当たり、英語ノート等の語彙・表現を効果的に想起、活用させる手法についても検証を行う。

イ 指導計画

(ア) 目標 「キャンプに必要な物について好み等自分の考えを話すことができる」

(イ) 「話すこと」に関する単元の指導計画

a 単元目標に照らした「話す活動」の言語活動

第1時 好きな食べ物についてのインタビューゲーム(10分)

第2時 キャンプで食べたいものについてのインタビューゲーム(5分)

複数形や数を尋ねる表現を用いた言語活動(10分)

第3時 好きな月とその理由を尋ねる対話(5分)

キャンプに行く時期を決める対話(5分)

第4時 好きな食べ物についての対話(5分)、対話の作成(30分)

第5時 数を尋ねる対話(10分)、対話の発表(40分)

b 英語ノート等の語彙・表現の活用を取り入れた指導計画

時	教科書	「話す活動」	使用する表現例	英語ノート等の語彙・表現の活用	外国語活動の語彙・表現
1	§1	好きな物についての対話	A: I like apples. Do you like apples? B: Yes, I do.	「外来語」のチャンツを聞いて I like の復習をする。絵カードを用いて語彙を発音する。	I like apples. 外来語(fish, milk, ski, rabbit, ice cream)等
2	§2	キャンプで食べたいものについての対話1	A: What food would you like for camping? B: I'd like (pizza).	What would you like のチャンツを聞いて、言い方に慣れる。その後、左の問答を練習する。	What would you like? 食べ物(soup, cake, sushi, salad)等
3	§3	好きな月とその理由を尋ねる対話	A: What month do you like? B: I like August, because my birthday is in August.	英語ノートの絵を見て月名を想起し、言い慣れる。その後キャンプの対話に活用する。	What do you like? What month do you like? 月名(January, February, March,

		キャンプにいく時期を決める対話	A: Let's go camping in (July). B: O.K.	April, May,)
4	課全体	好きな食べ物についての対話2 (スキットの作成)	A: Let's go camping in (1). B: Great! / Really? A: What do we need for camping? B: First, we need food. ここまでは課題文。右が自由口頭作文。 <u>外国語活動での語彙・表現の活用</u> A: How many (2) do we need? B: We need (3).	A: What would you like? B: I'd like sukiyaki. A: Really? (That's good / Pardon? I don't like sukiyaki.) B: Do you like sukiyaki? A: Yes, I do.
5	課全体	数を尋ねる対話 (スキットの発表)	A: How many (sisters) do you have? B: I have two sisters.	英語ノート I L3 How many?

(ウ) 授業の実際 (第4時／5時間)

過程	時間	学習活動	指導上の留意点	外国語活動の活用
導入	10	1 greetings 2 warm-up pair interview	文字との関連だけでなく、コミュニケーションとして目線や表情等も意識させる。 A: What food would you like for camping? B: Pudding, please. A: That's good. Me too / No. How about curry and rice?	- 小学校時と同じ挨拶である。文字を予め板書させ、音と文字のつながりを意識させる。 - 外国語活動で使った語彙・表現を利用する。
展開	24	3 review of program4 4 making sentences	- 全体を通した音読で発音や表現の確認をする。 - 内容理解の確認を行う。 - グループで音読の練習を行う。 - ペアで口頭による作文を作りグループ内で発表する。 【モデル文】 A: Let's go camping in (1). B: Great! / Really? A: What do we need for camping? B: First, we need food. ここまではモデル文。 吹き出しが作成チャレンジ部分。 B: How many (2) do we need? A: We need (3).	[Direction 1] ① 最初の3文に続けて3ペア作文しよう。 ② 1～3には好きな言葉を使おう。 [Direction 2] 挨拶、アイコンタクト、あいづちに留意し、4人グループで発表しよう。 《 生徒の対話予想モデル 》 A: What food would you like? B: I'd like sukiyaki. A: Really? (That's good. /Pardon? I don't like sukiyaki.) B: Do you like sukiyaki? A: No. How about pizza? B: O.K.
終末	5	5 self-evaluation 6 greetings	自己評価カードで本時を振り返る。	

ウ 検証授業Ⅰの考察

(ア) 単元の指導計画の工夫による「話す活動」の充実

「話す活動」においての目標に基づき、キャンプに持っていくものについて伝え合う内容

について、指定された文に続けて6往復12文程度作対話することとし、有効と思われる英語ノート等の語彙・表現から選択し、段階的に想起及び活用を図った。具体的には食べ物、月名、数の単語と好みを尋ねる表現、数を尋ねる表現、複数形を使う表現である。

「話す活動」の計画的な配置により、生徒は対話を円滑に行うことができ、対話の内容は教科書のモデル対話を使った3往復から6～7往復の対話に増えた。これまでの第1学年の、特に1学期の対話は、教科書等例文の単語を置き換える程度のものが主なものであったが、指導計画に意図的に外国語活動の語彙・表現を活用することで、生徒は幅広く表現を組み立てることができた。

対話の内容を積み重ねることにより、生徒は前時の学習を思い出し、対話に対する不安を減らし、自信を持って対話できた。また、定着できない表現は次時に補充するなど、単元を貫いた指導を行うことができたため、生徒の理解はより深まったと思われる。実際に「何度も繰り返すので理解できた。」という生徒の感想があった。

(イ) 言語の使用場面に照らした英語ノート等の語彙・表現の活用

上記のキャンプの準備について話す活動の中で、活用する語彙・表現の想起と活用については、英語ノートの教材を提示したり、音声聞かせたりすることが効果的であった。例えば、第3時では月名とそれに関連する行事、花、特色のある品物についての単語を英語ノートの該当ページを拡大して示したところ、提示のみで自発的に発音する生徒が多かったことから想起が円滑に行われ、また活用も容易であったように思われる。想起させる手法として英語ノートデジタル版を活用し、視覚イメージに音声を合わせて提示するとさらに有効であった。第1時で“Do you like apples?”という表現を想起させる際、英語ノートのLet's chant.を用いて動きのあるイメージとリズムに乗ったフレーズを視聴させたところ、これまでの教師による説明や教師の後について繰り返し発音する練習に比べて、短時間で活用できるまで高められることや、頭の中に残っている音声のイメージをそのまま授業に活用することができた。視覚、聴覚といった感覚への刺激は、効果が大きいと感じられた。

課題として、中には英語ノートを利用していない生徒や利用しても記憶に無い生徒がいることが挙げられる。どの程度の記憶が生徒に残っているか把握した段階で、活用可能であるかないかの判断が必要であり、これらの生徒に心理的な負担を与えない配慮も必要である。

(ウ) 生徒の対話例と授業後の意識

a 生徒の対話例

対話例1は、提案する表現や好みを聞く表現を使用している。対話例2は丁寧な提案の表現や食べ物でなく飲み物にまで話題が広がっている。(() と□内が生徒の自由作成部分である。)

〈対話例1〉

A: Let's go camping in (January).
B: (Really?...O.K.)
A: What do we need for camping?
B: First, we need food.
A: How about BBQ?
B: Great!
A: Do you like BBQ?
B: Yes, I do.
A: Anything else?
B: That's enough.
B: How many (tents) do we need?
A: We need (one).

〈対話例2〉

A: Let's go camping in (August).
B: (Great!)
A: What do we need for camping?
B: First, we need food.
A: What food would you like for camping?
B: Sukiyaki, please.
A: No. How about spaghetti?
B: Good! Me too.
A: What drink would you like for camping?
B: Cocoa, please.
B: How many (sleeping bags) do we need?
A: We need (two).

生徒は音声で発表しているので、作成例は対話を文章に起こしたものである。これまでの対話や教科書の本文を活用し、作成することができている。

b 授業後の生徒の意識

図5のように、英語ノート等の語彙・表現を活用したことについて「役立った」、「まあまあ役立った」と感じている生徒は86.8%である。このような授業を通して話す力がついていくと感じた生徒は93.3%に上った。具体的に役立ったこととしては「外国語活動で経験した単語（月名や料理名）を活用したこと」「経験した単語を対話活動に活用したこと」「英語ノートをICTを用いて活用したこと」が多く挙げられた。

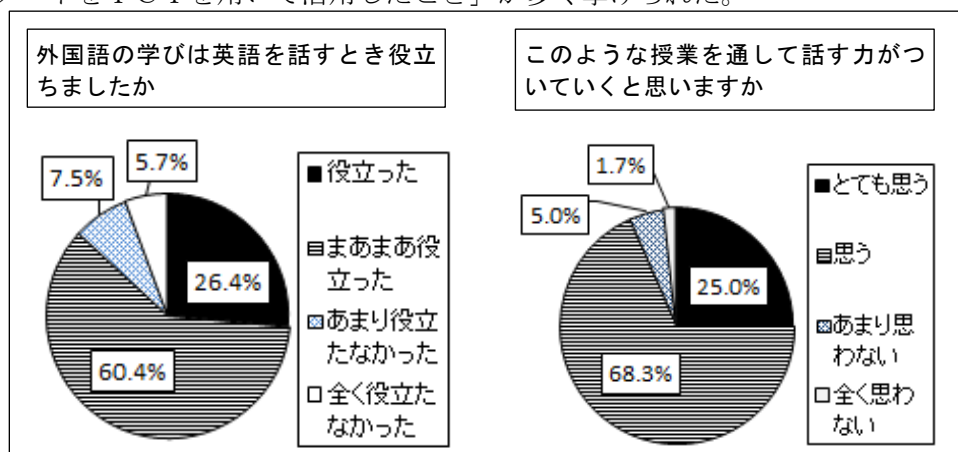


図5 授業後の生徒の意識

(2) 検証授業Ⅱ

ア 授業の概要

(ア) 単元名 Program 7 A day at the Rodeo (Sunshine English Course Book 1 開隆堂)

(イ) 授業のねらい

検証授業Ⅱでは検証授業Ⅰで行った単元を通した対話活動の積み重ねに加え、英語ノート等の語彙・表現を活用して文法事項を正しく認識させることで、生徒の対話内容がどのように変容するかを検証する。

具体的には、英語ノートで取り扱われている「一日の生活」を表す表現を活用して、過去形を導入することである。外国語活動で慣れ親しんだ表現を想起し、過去形を用いた表現と比較し、動詞が過去形に変化することや変化の規則に気付く、過去形を実際に用いて自分のことを表現する。英語ノートの語彙・表現への慣れ親しみを生かし、新出事項に対する生徒の負担を減らし、効率的に導入することがねらいである。また、第2学年で学習する want to ~（「～したい」）の表現も、その必要性から、英語ノートの活動を取り入れ、想起させ、その活用を図る。

本単元の「話す活動」として、題材に関連し、自分の行きたい国やその国でしてみたいことについて、毎時10分程度の単元を貫く対話活動を行う中で、対話内容に導入した文法事項が活用されるかという点も授業のねらいとなる。



写真1 ICTによる語彙・表現の想起



写真2 想起後の活用場面

イ 指導計画

(ア) 目標 「行きたい外国やそこでしたいことなど話し合うことができる」

(イ) 「話すこと」に関する単元の指導計画

a 単元目標に照らした「話す活動」の言語活動

第1時 行ってみたい国についての対話活動 (10分)

過去形の導入 (10分)

第2時 どの国で何をしたいかについての対話活動 (10分)

過去形を用いた言語活動 (10分)

第3時 行きたい国とその理由についての対話活動1 (10分)

How long+過去形の疑問文を用いた言語活動 (10分)

第4時 行きたい国とその理由についての対話活動2 (10分) 対話作成 (30分)

第5時 対話の発表 (50分)

b 英語ノート等の語彙・表現の活用を取り入れた指導計画

時	教科書	「話す活動」	モデル文	英語ノート等の語彙・表現の想起と活用		導入する文法事項	英語ノートの活用
				「話す活動」への活用	文法事項の認識への活用		
1	§1	行きたい国についての対話作成 1 行きたい国	A: I want to go to Italy. B: Oh! Italy! Nice / Really?	英語ノートで経験した国名を国旗の絵を見て発音し想起する。	「一日の過ごし方」のチャンツを聞き、語形の変化に気付く。	過去形 I played soccer.	英語ノート 2 / L6 I want to go to Italy./ L7 自分の一日を紹介しよう
2	§2	行きたい国についての対話作成 2 たずね方 3 なぜ行きたいのか理由に関する問答	A: Where do you want to go? And why? B: I want to go to Italy. I want to play soccer.	食べ物や国にちなんだものの名前を絵カードを用いて想起し、対話に活用する。	「一日の過ごし方」の絵をICTを用いてパタン・プラックティスに活用し、Did youの言い方に習熟させる。want to についてtoの後の表現を変えることで、したいことが表現できることを認識させる。	過去形の疑問文 A: Did you play soccer? B: Yes, I did. want to の用法	英語ノート 2 / L7 自分の一日を紹介しよう
3	§3	行きたい国についての対話作成 A and B: Hello! A: I want to go to France. I want to watch the Eiffel Tower. B: Oh! The Eiffel Tower! Nice! A: Oh! Pandas! A and B: Thank you!					英語ノート 2 / L6 I want to go to Italy.
4	課全体	行きたい国についての対話4 滞在したい期間の表現と尋ね方 スキット作成 A and B: Hello! A: I want to go to China for 3 months. I want to study Chinese. B: Oh! Study Chinese! Nice! A: Where do you want to go? How long do you want to go? And why? A and B: Thank you!					英語ノート 2 / L6 I want to go to Italy.

5	課 全 体	スキットの発表
		「モデル文」 A : I visited (国名) B : Did you enjoy it? ↗ ※ここから生徒の発想 6 文以上 (以下はモデル文) B : I want to go to U.S.A. A : What do you want to do? B : I want to watch basketball games. A : Do you like basketball? ↗ A and B : Thank you! A : Yes, I (したこと) / No, I didn't. Where do you want to go? B : Yes, I like it. A : How long do you want to stay? B : For one week.

(ウ) 授業の実際 (第 2 時)

学習内容	生徒の活動	外国語活動との関連
・挨拶 ・目標の確認 ・ Warm-up; skit	どの国で何をしてみたいか対話しよう。 昨日の出来事をたずねよう。 ・ どこで何をしてみたいか対話する。 A and B : Hello! A : I want to go to France. I want to watch the Eiffel Tower. B : Oh! The Eiffel Tower! Nice! A : Where do you want to go? ↗ B : I want to go to China. I want to watch pandas. A: Oh! Pandas! A and B : Thank you!	英語ノート 2-L6
・ § 2 の学習 ・ 過去形の疑問文	・ 単語学習 → 音読 → 内容理解 ① Let's play①の絵をプロジェクタで投影し、過去形の疑問文をボタン・ブラックティスする。 ② did ,原型, 答え方等過去形の疑問文の要点を確認する。 ③ おはじきゲームのページを使って、友達と昨日したこと対話を行う。	英語ノート 2-L7
・ 本時のまとめ ・ あいさつ	・ 本時の学習を振り返る。	

ウ 検証授業Ⅱの考察

(ア) 英語ノート等の語彙・表現を活用し、文法事項を正しく認識させること

本単元の重要な文法事項である一般動詞の過去形の導入に、英語ノート 1 の Lesson7「自分の一日を紹介しよう」の表現を活用した。音声で慣れ親しんだ語彙・表現を文字で確認し、その語形変化を知り、実際に自分のこととして表現することで、学びの定着を図った。

英語ノート等の語彙・表現を活用することで、教科書では未習であっても想起の工夫で文法事項の導入が円滑に行えた。過去形の導入を行うに当たり、前述のレッスンの「朝起きてから寝るまで」をリズムに乗って発音する“Let's chant.”を音声で想起させ、過去形の動詞の語形変化とその規則性を生徒に気付かせる手法をとった。具体的には、“Let's chant.”によって想起した現在形での一日の表現と、教師が話す昨日の一日の表現と比較し、動詞の変化に気付かせた。生徒に過去形のルールを確認した際、これまでであれば「動詞に ed が付く。」という解答がほとんどであったが、音による導入では「[d] の音が付く。」と答え、知識としてだけでなく音声を通して過去形の規則について理解できたことが印象的であった。

また、“want to go to Italy.”という表現も導入した。言語の使用場面において適切だと

考え、第2学年で学ぶ to 不定詞であったが、本単元にて活用することとした。今回は文法用語等を用いて説明はしていないが、生徒は「I want to go to+場所」で行きたい場所を表現できることと、「I want to watch the tower.」のように I want to+「具体的にやってみたいこと」でしてみたいことが伝わるという認識がもてた。

(イ) 単元の指導計画の工夫による「話す活動」の充実

検証授業 I と同様に、自分の行きたい国について友人と対話を積み重ねていく活動を、英語ノート 2 Lesson6 の教材を活用して指導を行った。英語ノートの語彙としては、国名、それぞれの国に関連のある食べ物やさらにはスポーツといった単語を活用し、表現においては「I want to go to ~.」を活用した。

話す活動の計画的な指導により、「行きたい国」「そこでしてみたいこと」「滞在期間」など、この単元を通して、生徒の発想を生かした対話活動を行うことができ、検証授業 I と同様 6 往復 12 文以上の対話をほとんどの生徒が行うことができた。対話のテーマに関連し、どの生徒も「I want to ~」「Do you want to ~?」の表現を使用しており、言語の使用場面に適する表現であれば、学習時期にかかわらず導入できると考えられる。

課題としては各時間 1 往復程度のやり取りであると問題なく対話できるが、時間が進むにつれて対話量が増えてくると負担が増し、容易に話せない状況も見られたことから、話したい内容やアイデアを文字にして、メモを基に伝えるよう指導する必要性も感じられた。

(ウ) 生徒の対話例と授業後の意識

生徒の多くが 3 往復程度の対話を作成し、15 組中 12 組のペアが発表することができた。下の対話例は発表前にペアで練習をするために作成したものである。

a 生徒の対話例

〈 対話例 1 〉

※ 聞いているクラスメートが楽しくなるような文が作れたら very good! (〃) b

B	I want to go to コリア
A	Oh! コリア How long do you want to go?
B	For 1 week.
A	What do you want to do?
B	I want to see KARA
A	Oh! KARA Nice!
A & B	Thank you

B: I want to go to コリア.
A: Oh! コリア. How long do you want to go?
B: For 1 week.
A: What do you want to do?
B: I want to see KARA.
A: Oh! KARA. Nice!
A and B : Thank you.

〈 対話例 2 〉

B	I want to go to America!
A	Oh! ^{America} Nice. and why?
B	I want to go to Hawaii!
A	Oh! Hawaii Nice!
	How long do you want to go?
B	About for eighty years.
A	Oh, my god!
A and B	Thank you

B: I want to go to America.
A: Oh! America. Nice, and why?
B: I want to go to Hawaii!
A: Oh! Hawaii. Nice!
How long do you want to go?
B: About for eighty years.
A: Oh, my god!
A and B : Thank you.

対話例 1 は、「want to」を用いた表現で行きたい場所、行きたい期間、やってみたいことなど授業で取り扱った話題が対話に取り入れられている。

対話例 2 は、生徒が楽しんで対話作成を行っていることがわかる。限られた表現ではあるが、その中でユーモアを交えて楽しく対話しようと努力したことが感じられる。聞き手を楽しませる意識をもって表現活動に取り組んでいる。

b 授業後の生徒の意識

生徒の感想は多くが「話す活動」に好意的であった。アンケート調査によれば 65.5 % の生徒が対話を楽しみながら活動しており（図 6），このことから生徒の多くは「話す活動」に意欲をもって取り組んだことが分かる。「発表が楽しかった。」「英文で対話することが好きだ。」「英文が組み立てやすかった。」等の感想が挙げられた。

英語で話すときに外国語活動を利用したことが「役立った」，「まあまあ役立った」と答えた生徒は 87.9%に上った。役立った内容としては「チャンツなど英語ノートデジタル版を利用したこと」，「英語ノート等の語彙・表現を活用したこと」，「ゲーム等外国語活動で経験したことの活動をしたこと」という回答が多かった。

発表に関しても，ペアで協力し，助け合いながら最後まで発表することができた。「自分達だけで対話を作って話し合いができてとても楽しかったです。対話作りにはちょっと戸惑いがあったけど 12 文作れてよかったです。」など，教師の支援はあるが，主として自分達で作成できたことで自信をもてたことについての感想文もあった。

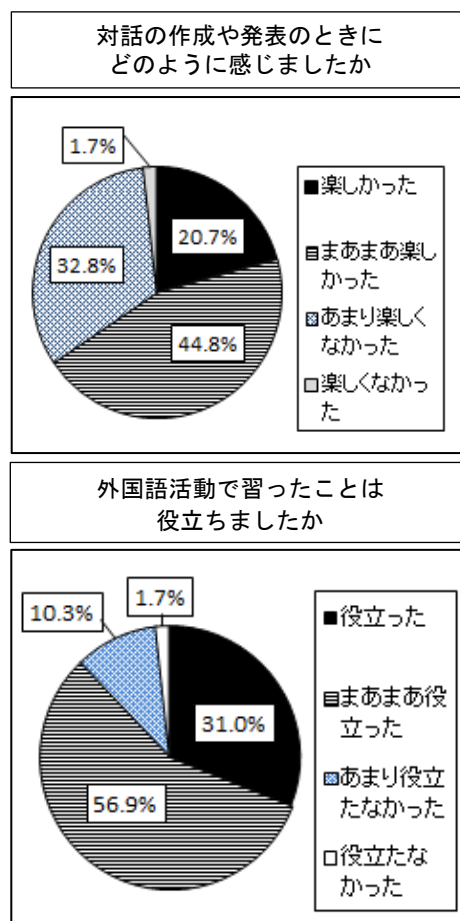


図 6 授業後の生徒の意識

《 生徒の感想 》

授業を受けてみての感想を自由に書いてください。

会話かとても多く、どんどん身についていった。
話していくうちに楽しくなってきた。話すことが楽しかった。
最後の発表では二人で協力して、しっかりと発表できた。
今回の授業はとても楽しかったし、勉強になりました。
ありがとうございました。

授業を受けてみての感想を自由に書いてください。

パソコンで小学校の時にやっていた外国語のチャンツが
海外旅行の作成にとっても役立った。教科書の会話文を友達
と読み合ったり授業の初めの会話、ゲームなどを通して
会話する力が英語の楽しさを知れた。単語も1個ずつみ
なで読み合わせていたのでよかった。

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果と課題

(1) 外国語活動を生かした「話す活動」を位置付けた到達目標・年間指導計画

年間指導計画の作成によって，計画的な「話すこと」に関する指導の展開を見通すことができた。英語ノート等の語彙・表現を整理しておくことや，話すことに適する第 1 学年の題材を選択する作業を通して，どの時点で英語ノート等の語彙・表現を活用するかが明確になった。

課題としては，今後年間を通した継続的な「話す活動」を実践し，生徒の話す力の向上がどの程度図られるかを見取り，それぞれの段階で英語ノート等の語彙・表現をどのように活用するかについて適宜再検討することが挙げられる。

単元の目標に照らして年間指導計画を作成したが、実際の指導においては、生徒の実態を考慮する必要がある。

(2) 単元の指導計画の工夫による「話す活動」の充実

対話活動の積み重ねや計画的な語彙・表現の想起・活用によって、生徒は学習する語彙・表現を無理なく学び、単元終末の対話活動に活用できた。前時の活動を踏まえて本時の対話を行うことで、特段の抵抗感を感じることなく、対話を展開していけると感じた。語彙・表現に関しては、英語ノート等で既に経験したものを想起することに加えて、単元計画の中でも複数回に渡り、繰り返されることで、より定着していくことが感じられた。

課題としては、生徒の発表の際には気にならなくても、授業後発表の際に用いたメモを読むと正確性に問題がある。生徒が誤って理解している場合、発表の段階で聞き取れた誤りについては指導できるが、音声上は間違っていないとしても書いてみると、不定詞 **to** の欠落や単語選択の間違いなど、誤解している部分があった。対話作成から発表の間に細やかな修正ができる時間を確保したり、手段を工夫したりすることが必要である。

(3) 言語の使用場面に照らした英語ノート等の語彙・表現の活用の工夫

言語の使用場面に照らして語彙・表現を選択し、英語ノートの絵や音声を活用して想起することで、中学校では未習の単語であっても、生徒が抵抗感をもたずに対話に活用できることが検証できた。事前に選択した語彙・表現の理解の度合いを把握し、想起の工夫や計画的な語彙・表現の選択と活用によって、外国語活動の慣れ親しみを活用できることが分かった。これらの工夫によって、対話内容の量や質を向上させることができ、生徒は英語ノート等の語彙・表現の活用に対して、負担感ではなく有用感をもっていることがわかった。加えて無理のない対話活動の設定により、「自分は英語が話せる」という学習意欲につながる自信につながったことも生徒のアンケートから理解できた。

一方で、生徒に提示する英語ノート等の語彙・表現の選択は課題として残る。外国語活動で慣れ親しんだ語彙・表現は、対話場面によってはかなりの数を取り入れることができるが、使用可能なものを選定せずに提示すると、生徒の負担となることも考えられるからである。

(4) 英語ノート等の語彙・表現を活用し文法事項を正しく認識させる工夫

文法事項や役立つ表現を導入するに当たり、英語ノート等の語彙・表現の想起は多くの生徒にとって有効であった。

検証授業Ⅰでは、既にこれまでチャンツで慣れ親しんでいた表現に、中学校で新しく導入される英語のルールが存在することに気付かせることができた。検証授業Ⅱでは、時制による動詞の語形変化の規則性を認識させることが重要な学習であったが、教師の説明による理解ではなく、英語ノートデジタル版での、聞いたことのあるチャンツにおける表現と教師が意図的に用意した表現とを比較することで、生徒の気付きを促し、定着が図れたと感じられた。また、英語ノート等の語彙・表現を活用することにより、教科書単独の指導に比べ、多くの表現を活用するため、たくさんの例の中から英語の規則性について気付かせることができた。他の表現についても、音声で獲得している知識を、中学校で整理し表現活動に活用することが可能であると思われる。

2 今後取り組むべき点

(1) 小中連携の推進

訪問した4小学校の聞き取りを通して、「外国語活動がどのように英語の指導に生かされているのか。」「どのように小中学校の連携を図るべきか。」等について関心が高いことが分かった。今後は、小・中学校のそれぞれの指導の実態・学習状況等を把握するための場を設定し、小学校を卒業した子どもの中学校入学後の学習状況の報告などを定期的、継続的に行う必要がある。

特に、小学校高学年の児童と中学校第1学年の生徒を中心として、具体的には小中の継続的な指導を行うことで、生徒の学びの可能性は広がっていくのではないかと考える。

(2) 「話すこと」以外の技能への連結

本研究は、「話す活動」を中心に研究を進めたが、中学校で最も課題となっているのは「書くこと」である。本格的な文字指導は中学校から始まるが、外国語活動を経験してきた生徒であっても、聞いたり話したりすることに慣れ親しんでいるだけ、書くことに抵抗感をもつ者も少なくない。原因としては、自分の考えを話して伝えることはできても、その音声を書いて表す際に正確さを求められるからである。「話す活動」を充実させることで、音声と意味の結びつきは強化されることから、音声と文字の結びつきなどについて、計画的な指導を工夫することで、これまで以上に書いて表現する力も向上すると考える。

＜引用文献＞

- | | | | |
|---------|----------------------|--------|--------|
| ○ 文部科学省 | 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 | 2008 年 | 開隆堂出版 |
| ○ 文部科学省 | 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』 | 2008 年 | 東洋館出版社 |
| ○ 文部科学省 | 英語ノート 1・2 | 2009 年 | |
| ○ 文部科学省 | 英語ノート指導資料 1・2 | 2009 年 | |

＜参考文献＞

- | | | | |
|-----------------|--|--------|---------------|
| ○ 本多敏幸 | 到達目標に向けての指導と評価 | 2004 年 | 教育出版 |
| ○ 本多敏幸 | 英語力がぐんぐんのびる！コミュニケーション・タイム - 13 の帯活動&ワークシート - | 2009 年 | 明治図書 |
| ○ 英語科実践講座刊行会 | ECOLA 第 2 巻コミュニケーション能力の育成 | 1992 年 | (株)ニチブン |
| ○ 神奈川県立総合教育センター | 小学校英語活動を踏まえた中学校の入門期指導 | 2010 年 | |
| ○ 鹿児島総合教育センター | 指導資料 外国語科英語 第 69 号 | 2011 年 | |
| ○ 及川賢 | 英作文を通して見た中学生の英語熟達度発達過程 | 2010 年 | 埼玉大学紀要 |
| ○ 山中敦子 | コミュニケーション能力の基礎を養う中学校英語の指導法 | 2009 年 | 神奈川県立総合教育センター |
| ○ 白畑知彦ほか | 『英語教育用語辞典』 | 2009 年 | 大修館書店 |
| ○ 田尻悟郎 | 『(英語) 授業改革論』 | 2009 年 | 教育出版 |
| ○ 道面和枝 | 英語指導の達人 7 中 2 で楽しく会話が続く「2 分間チャット」指導の基礎・基本 | 2009 年 | 明治図書 |
| ○ 三浦孝 他 | だから英語は教育なんだ 心を育てる英語授業のアプローチ | 2007 年 | 研究社 |
| ○ 伊東治己 | アウトプット重視の英語授業 | 2008 年 | 教育出版 |

長期研修者 [河 原 ミ ワ 子]

担 当 所 員 [小 林 俊 一 郎]

【研究概要】

本研究は、中学校第1学年の「話すこと」に着目し、小学校の外国語活動で取り扱われる語彙・表現を活用して、その充実を図る指導について研究したものである。

小学校の共通教材「英語ノート」の語彙・表現を中心に分析し、言語の使用場面に照らした活用や文法事項の正しい認識に役立つ活用を促す指導を通して、生徒の対話内容の向上が図られることを検証した。

その結果、「話すこと」の到達目標や年間・単元の指導計画に基づき、「英語ノート等」から選定した語彙・表現の想起の工夫を行い、各時間10分程度の対話活動に取り入れることで、生徒に負担をかけずに対話内容の質を向上させたり、英語の規則性を生徒自身に気付かせたりすることができるということが明らかになった。

【担当所員の所見】

外国語活動が全面実施され、その成果を中学校の英語教育に円滑に接続する具体的な考え方や指導が強く求められている。しかしながら、どの視点で接続を図るかについては、小学校、中学校の目標の違いなどから課題が多い現状である。

本研究においては、音声で外国語に触れてきた生徒に最も効果があると考え第1学年の「話すこと」に着目し、小学校で取り扱われた語彙・表現を中学校の視点から整理し、その活用を図っている。

成果として、外国語活動で触れた語彙・表現であれば、中学校の各学習段階で未習であっても、音声により想起させることで、表現の質の向上や文法の理解に役立つ可能性が認められた。また、生徒の意識調査から、小学校の語彙・表現の活用により、表現量が約2倍になっても、負担感はあまり感じられず、むしろほとんどの生徒が、「中学校の英語学習に対して外国語活動の学びが役立つ」と感じていることは注目に値する。

今後の課題として、音声で慣れ親しんだ英語を文字と結び付け、書く力の向上を図ることが挙げられる。中学校入門期からの文字指導においても、慣れ親しんだ音声を文字にどう表すかという視点で指導することも考えられる。

小・中連携を意識した中学校の具体的な取組は、県内でも数が少ないことから、本研究がその先駆けとなると考えられる。今後のさらなる研究を期待したい。

